

将来求められる機能について

ICU・ACU・SCU・HCU

【現状】

医療センターにおける、ICU・ACU・SCU・HCUの整備状況は、以下のとおりである。

病床種別	病床数
ICU（集中治療室）	8床
ACU（救命救急治療室）	7床
SCU（脳卒中集中治療室）	6床
HCU（高度治療室）	0床

- ・ ICU：緊急で高度な医療が必要な患者が入院している。
主な患者は、心肺停止、交通外傷、心筋梗塞、心臓疾患手術後、脳血管疾患、消化器疾患の緊急入院及び予定手術後の患者など。
- ・ ACU：救急搬送される患者をはじめ、一般外来から緊急入院する患者を、24時間体制で受け入れている。
- ・ SCU：急性期の脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など）の患者を受け入れている。

【将来推計】

ICU等の特殊病床に入院する患者の多くを占める「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、
「循環器系の疾患」、「神経系の疾患」の2035年疾患別 対2014年入院患者増加率は、以下の
とおりであり、いずれも患者数の増加が見込まれている。

- ・ 損傷、中毒及びその他の外因の影響 80%
- ・ 循環器系の疾患 78%
- ・ 神経系の疾患 52%

2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 東葛南部）

呼吸器系の疾患	104%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	47%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	80%	皮膚及び皮下組織の疾患	38%
循環器系の疾患	78%	新生物	33%
消化器系の疾患	60%	眼及び付属器の疾患	27%
内分泌、栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	23%
腎尿路生殖器系の疾患	53%	耳及び乳様突起の疾患	12%
神経系の疾患	52%	先天奇形、変形及び染色体異常	-20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	50%	妊娠、分娩及び産じょく	-28%
感染症及び寄生虫症	49%	周産期に発生した病態	-28%

千葉県保健医療計画及び地域医療構想の策定に係る
調査分析事業報告書(平成27年3月)

（参考）現行の医療センターのICU等の利用状況（基礎調査より抜粋）

現行のICUには、術後に高度な全身管理を必要とされる患者や、急性機能不全に陥った患者、合併症などにより重症化した患者などが入室しており、救命救急入院料は算定しているが、施設の形状が施設基準に適合しないため、救急患者以外の術後の患者を対象とした特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料等が算定できていない状況である。

周産期

【現状】

1. 現在、医療センターについては、母体搬送ネットワーク連携病院として指定されているが、NICUは有していない状況である。

なお、東葛南部保健医療圏においては、総合周産期母子医療センターである東京女子医科大学附属八千代医療センター、地域周産期母子医療センターである順天堂大学医学部附属浦安病院及び独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院がその役割を担っている。

市町村	病院名	病床数 (HP調べ)
船橋市	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院	15
八千代市	東京女子医科大学附属八千代医療センター	21
浦安市	順天堂大学医学部附属浦安病院	6
計		42

2. 全国的な人口構造から推計すると、出生率は減少傾向にはあるものの、千葉県のNICU病床数の目標値130床に対し、全県では121床であり、9床不足している状況である。

(千葉県周産期医療体制整備計画(平成23年))

医療圏	病院名	周産期センター	NICU病床数 (HP調べ)
東葛南部	東京女子医科大学附属八千代医療センター	全県対応 (総合)	21
	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院	地域	15
	順天堂大学医学部附属浦安病院	地域	6
千葉	千葉大学医学部附属病院	全県対応	6
	千葉市立海浜病院	地域	12
	千葉県こども病院	(連携)	9
東葛北部	国保松戸市立病院	連携	12
印旛	東邦大学医療センター佐倉病院	地域	9
香取海匝	国保旭中央病院	地域	9
君津	君津中央病院	地域	9
安房	亀田総合病院	全県対応 (総合)	13
計			121

3. 東葛南部保健医療圏については、NICUの稼働率が常時高く、搬送の受け入れが困難となる可能性があることが指摘されている。

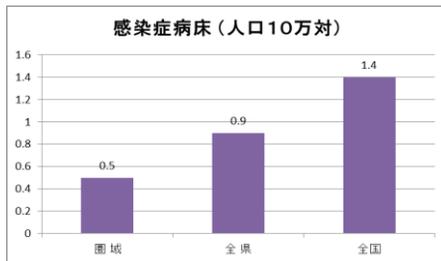
感染症

【現状】

1. 現在、医療センターにおいては、感染症病床は有していない状況である。
 なお、東葛南部保健医療圏の感染症病床については、以下のとおりである。

市町村	病院名	病床数 (HP調べ)
船橋市	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院	4
市川市	東京ベイ・浦安市川医療センター	4
計		8

2. 人口10万対感染症病床については、全県では0.9床、東葛南部保健医療圏では0.5床であり、全国の1.4とは大きな差がある状況である。



資料：医療施設調査（厚生労働省、平成23年10月1日現在）
 人口—千葉県年齢別・町丁字別人口調査（千葉県平成24年3月31日現在）

3. 感染症患者数については、近年は毎年2,000件程度で推移しているものの、感染症病床の利用率が増加傾向にある。



平成25年 病院報告

4. 千葉県保健医療計画による、県全域における感染症病床数の過不足数は、以下のとおりである。

	基準病床数 A	既存病床数 B	過不足病床数 B-A
感染症病床	59	58	▲1

(千葉県保健医療計画(平成23年度～平成27年度))

【将来推計】

「感染症及び寄生虫症」の2035年疾患別 対2014年入院患者増加率は49%と推計されており、今後、患者数の増加が見込まれている。

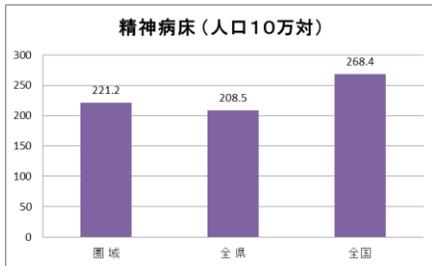
呼吸器系の疾患	104%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	47%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	80%	皮膚及び皮下組織の疾患	38%
循環器系の疾患	78%	新生物	33%
消化器系の疾患	60%	眼及び付属器の疾患	27%
内分泌、栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	23%
腎尿路生殖器系の疾患	53%	耳及び乳様突起の疾患	12%
神経系の疾患	52%	先天奇形、変形及び染色体異常	-20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	50%	妊娠、分娩及び産後	-28%
感染症及び寄生虫症	49%	周産期に発生した病態	-28%

千葉県保健医療計画及び地域医療構想の策定に係る調査分析事業報告書(平成27年3月)

精神科

【現状】

- 現在、医療センターにおいては、精神科病床は有していない状況である。
なお、東葛南部保健医療圏においては、精神疾患についての急性期医療については、基幹病院として2病院（国府台病院、千葉病院）、救急輪番病院・措置輪番病院として6病院、救急輪番病院として1病院が行っている。
- 人口10万対精神病床については、全県で208.5床であり、東葛南部保健医療圏においては、221.2床であるが、全国の268.4床と比較すると少ない状況である。



資料：医療施設調査（厚生労働省、平成23年10月1日現在）
人口-千葉県年齢別・町丁字別人口調査（千葉県平成24年3月31日現在）

- 千葉県保健医療計画による、県全域における精神病床数の過不足数は、以下のとおりである。

	基準病床数 A	既存病床数 B	過不足病床数 B-A
精神病床	12,949	12,936	▲13

(千葉県保健医療計画(平成23年度～平成27年度))

- また、精神科救急については、一般救急の連携が十分ではなく、特に身体合併症を有する精神疾患患者の診療体制の確保が困難であるとの課題があげられている。（第15回今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会(平成21年3月)）

【将来推計】

「精神及び行動の障害」の2035年疾患別 対2014年入院患者増加率は23%と推計されており、今後、患者数の増加が見込まれている。

今後、高齢化の進行により増加する認知症患者の合併症の面からも、精神科の役割は大きくなることが想定される。

呼吸器系の疾患	104%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	47%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	80%	皮膚及び皮下組織の疾患	38%
循環器系の疾患	78%	新生物	33%
消化器系の疾患	60%	眼及び付属器の疾患	27%
内分泌、栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	23%
腎泌尿生殖器系の疾患	53%	耳及び乳突突起の疾患	12%
神経系の疾患	52%	先天奇形、変形及び染色体異常	-20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	50%	妊娠、分娩及び産じょく	-28%
感染症及び寄生虫症	49%	周産期に発生した病態	-28%

千葉県保健医療計画及び地域医療構想の策定に係る調査分析事業報告書(平成27年3月)